

## 取組実践検証校の実践について

### 1 取組の経緯（全校共通）

（1）年齢や職務内容が異なる教員を対象に、個別またはグループヒアリングを実施

#### <ヒアリング項目（例）>

- ・自分の仕事や生活について、本当はどうしたいと思うか。
- ・それが実現したら、どのようなことが起こるか。
- ・それを実現させるためにはどうしたらいいか。

（2）ヒアリングを踏まえた課題分析や解決策について、職員によるワークショップを実施

### 2 ヒアリングにおける教員の発言

#### <本当はどうしたいか。>

- ・土・日は体を休めたい。勤務時間内で仕事を終わらせたい。
- ・授業の準備にもっと時間をとりたい。勉強ができない子への学習支援がしたい。
- ・テストの採点や評価について、効率化を図りたい。
- ・部活の大会が土日にある時に気軽に他の方に頼めるとよい。

#### <実現できれば、どう変わるか。>

- ・毎日笑顔で心のゆとりを持って健康的に仕事ができる。
- ・子どもの学力が上がる。自信を持って教壇に立てる。

#### <現状はどうか。>

- ・持ち帰り残業があると、家庭で父親や夫の役割が果たせない。
- ・部活指導は複数顧問制だが、実際に指導できる教員が複数いないので形ばかりである。
- ・夜8時頃くらいまでは、黙々と仕事をしているイメージであり、もう少しゆとりを持って、子どもたちの情報等を共有できるといいと思うことがある。

### 3 各学校のありたい姿：

#### ●豊小学校の「ありたい姿」

「授業に向き合える職場環境へのシフト改善を図れば、すべての教職員の時間と心にゆとりが生まれ、子どもたちに寄り添ったきめ細やかな指導・支援ができるようになり、子どもたちはゆたかに育つ。」

【ゆ：ゆたかな心(徳) た：たくましい体(体) か：考える子(知)】

#### ●七宝北中学校の「ありたい姿」

「休日や授業準備の時間を確保して心に余裕をつくり、授業環境が良くなれば、生徒も先生も向上する！」

#### ●江南高等学校の「ありたい姿」

「チーム江南として指導力、教員のワークライフバランスの質を高めつつも、健康的でやりがいのある職場を目指す。」

#### 4 課題の抽出に関する教員の発言（ヒアリング・ワークショップ等）

##### <部活動>

- ・毎日部活動があり、ほぼ全員が担当している。特に担当のトップの負担が大きい。
- ・部活動は複数顧問制になっているが、実質の指導ができる教員が複数いれば可能だが、実際には難しいのが現状である。
- ・部活動の朝練をやめてほしい。ただ、周りの目や保護者の期待があるのも事実である。
- ・担当している部活動は未経験だが、外部コーチはいない。しかし、全てを任せることができないなら仕事が増えるだけである。更に外部コーチとベクトルが異なればより大変である。

##### <校務分掌>

- ・進路主事の事務処理に追われ、教材研究の時間が取れない。
- ・教務主任としての仕事がとても多く、時間内で終えるのはとても無理である。
- ・学級担任を持たない先生がほとんどおらず、仕事の分担が困難。校務分掌の重なりも多い。
- ・分掌は教員の仕事であるが、生徒指導はどこまでが教員の仕事なのか。
- ・疲労感を減らすためには人員配置の工夫で負担の偏りをなくしたい。

##### <情報共有>

- ・勤務時間内で同僚の先生方と話す時間がほとんどなく、横つながりの情報共有がスムーズでない。
- ・小規模校ゆえ、専門教科以外の授業を持たざるを得ず、準備に非常に時間がかかる。
- ・民間では当たり前のOJTや引継ぎが少なく、教えてもらえない。

##### <タイムマネジメントなど>

- ・年配の先生は要領よく早く帰れるが、若い人が残って仕事をしている。
- ・一斉下校などの時間が守れないので、そのあとが遅れていく。
- ・会議の時間が長い、終わる時間を示す工夫がない。
- ・仕事が多い現状はあるが、一方では、効率・能率が悪いのも事実ではないか。
- ・本当に必要か？と思う仕事が多いと思うが、やめて成績が下がるのが怖いのか、やめられない。

#### 5 課題の抽出、具体的な取組など

##### <豊小学校：9月から実施を進めている具体的取組>

- ・会議時間短縮のため、議題ごとの提案検討時間、開始時刻・終了予定時刻を設定する。
- ・一斉下校時間の順守のため、音楽を流す。
- ・下校指導の負担軽減のため、一斉下校では生活当番が分担して行う。  
3～6年の下校については、『運動場で方面別の集合はせず、教室で解散し、決められた時間に校門をくぐる』方法の完全実施に向けてすすめている。(30.5月完全実施予定)

##### <七宝北中学校の検討課題> ⇒ 部活動、書類の削減

- ・部活動は朝練か夕練のどちらかにし、勤務時間内に実施
- ・部活動は希望制にする（生徒の入部、教員の顧問就任とも）
- ・全てPCの画面上で対応するなど、ペーパーレス化を推進。Wi-Fiの導入

##### <江南高校の課題の抽出>

- ・テストの厳選、部活指導の負担減、仕事内容の見直し など

## 業務改善推進計画（案）の概要（平成30年1月時点）

### 1 豊橋市立豊小学校

#### 【ゴールイメージ】

授業に向き合える職場環境へのシフト改善を図れば、すべての教職員の時間と心にゆとりが生まれ、子どもたちに寄り添ったきめ細やかな指導・支援ができるようになり、子どもたちはゆたかに育つ。【ゆ：ゆたかな心(徳) た：たくましい体(体) か：考える子(知)】

#### 【課題・アクション】（平成30年度重点項目）

#### 1 部活動の負担を減らしたい

- 部活動数の検討（減らす場合は3年計画。子どもや保護者の理解を得ることが必要）
- 活動期間の見直し
- 担当者の割り振り・分担の検討
- 指導内容の検討

（例）金管：運動会では、ドリル演奏をやめ、入場行進の演奏のみとする

陸上：すべての種目に出場することにこだわらず、実態に応じた出場種目を検討する

#### 2 行事に追われ、落ち着いて学級指導・学習指導ができない

- 行事の精選（体育的行事を含む）
  - ・家庭訪問は自宅の確認のみ
  - ・運動会の表現種目の検討（種目の固定化など）
  - ・縦割り班によるミニ運動会「やまももオリンピック」の種目や種目数の見直し
  - ・学習発表会の演技内容の検討、大道具・小道具等の簡略化 など

#### 3 授業等で保護者の支援をいただきたい

- 保護者の学習ボランティア募集
  - ……体育の授業や夏休みのプール監視・家庭科の実習校区探検の引率など
  - ・PTA総会にて保護者に説明（4月）→学年だより等にて依頼（適宜）

#### 4 地域の方々の支援をいただきたい

- 地域に人材を求め、人材バンクを作成する。
  - ・自治会長等への説明、PTA総会にて保護者に説明（4月）
  - ・地域教育ボランティア推進会議（年3回）の開催
    - ⇒〈第1回：5月〉募集の提案 → 〈6～9月〉募集(校区回覧の活用) →
    - 〈第2回：10月〉結果報告・検討 → 〈第3回：1月〉人材バンク作成
  - ・三世代交流活動の継続…… 〈5月〉校内の草取り、〈12月〉昔遊びの会(生活科)

※ 学校だより(校区回覧を含む)で取組に関する子どもへの還元について紹介(7月、11月)

## 【課題・アクション】（平成29年度からの継続項目）

### 1 会議の時間が長くなる。

- 職員会議の議題ごとの提案検討時間、開始時刻・終了予定時刻を設定する。
  - ・表紙に議題ごとの提案検討時間、開始時刻・終了予定時刻を明記する。
- 職員会議の提案文書を共有化する。
  - ・本年度職員会議で提案した文書について、改善すべき点を修正したうえで、来年度提案用のフォルダに残しておく。
- 生徒指導に関わる生活サポート委員会の事前資料の作成、開始時刻・検討時間を設定する。
  - ・相談者が事前に問題点・対応・相談事項を書き、校務用サーバに入れ、要点を絞って相談する。検討時間を決め、時間内で話し合う。

### 2 下校指導の負担を減らしたい。

- 一斉下校時の集合を早くするため、下校時に音楽を流し、終了までに整列を完了する。
- 一斉下校の指導は生活当番が分担して行う。
- 3～6年の学年下校は、教室で解散し、  
決められた時間の間に校門をくぐる。  
(運動場で方面別での集合はせず、当番が校門で指導)



1～2月：保護者・関係者への説明  
3月：試行開始（予定）  
5月：実施開始（予定）

### 3 その他

- 朝の打ち合わせ用紙を全員に配付する手間を省くため、校務支援システムの掲示板を活用する。(紙代の節約)
- 平日の午後7時以降、土・日曜日・祭日は、できるだけ電話をとらない。  
⇒ 来年度のPTA総会で説明し、継続していく。(本年度PTA委員会では説明済)
- 特別教室の鍵を分かりやすく設置する。  
⇒ キーホルダーを木札にし、鍵のフックに使用教職員のネームプレートをかける。

## 2 あま市立七宝北中学校

### 【ゴールイメージ】

休日や授業準備の時間を確保して心に余裕をつくり、授業環境が良くなれば生徒も先生も向上する！

### 【課題・アクション】

#### 1 人数を増やす。または負担を減らす。⇒（担当）教頭、教務、授業研究部会

○授業時間や校務分掌の見直し（生徒とのコミュニケーションの時間を増やす）

・家庭訪問の希望制

○免許外教科担任をさける（市に要望）

○授業コマの工夫（専門教科と免許外教科担任の授業）

・専科科目の小中か中中交流の検討（市校長会）

校務分掌の見直し、授業研究分  
部会における授業コマについ  
ての検討は年間を通して実施

#### 2 授業に集中できるよう勤務体制を見直す（会計・登下校指導・環境整備等）

⇒（担当）教頭、学年会計、事務職員、生徒指導主事

○会計については、現金の取扱いを事務職員が行う。

・学年会計担当者が請求書を確認後、事務職員に支払いを依頼⇒事務職員が支払い

・学年会計担当者が会計報告を作成

○時間外の交通指導の削減（早朝）

○「登下校指導は地域で」の啓発

#### 3 授業力の向上、授業アイデアの共有、データ（ex. あま市の先生方の授業案を共有）

⇒（担当）教務主任

○市の教務主任者会で授業アイデアのデータ共有を呼びかける。

○テスト問題・ワークシートの市内全体でのデータベース化、準備・実施。

#### 4 部活動の検討 ⇒（担当）管理職、部活動担当

○部活動希望制、選択制の検討（地域の実情を考慮）

○部活動時間の検討（地域の実情を考慮）

・平日の1日と土・日のどちらかは行わない

・長期休業中：土日祝部活なし、平日練習は半日（8:30～16:00の間で）

・4月：早朝部活なしの検討、5月・11月：午後部活動時間の検討

○部活動数の検討 ⇒ 5月：入部生徒決定後、必要があれば検討

○特設部（陸上・駅伝・相撲）の検討（地域の実情を考慮）

## 5 休暇・時間をつくる ⇒ (担当) 全職員

- 能率よく、計画的に仕事をすすめる。(周りに迷惑がかからない環境づくり)
  - ・ 休日の出勤は行わない。(原則、部活動・生徒指導以外。)
  - ・ 在校時間：80 時間以内 (4～6 月、9～10 月)、70 時間以内 (1～3 月)、60 時間以内 (7 月、11～12 月)、30 時間以内 (8 月)
  - ・ 長期休業中の時間外勤務は行わない。
- 積極的に年休を取る。
  - ・ 年次休暇月 1 回以上 (8 月、11 月、12 月、3 月は月複数回)

(担当) 管理職、教務主任

- 定時退校日の設定 (学校・学年・個人)
  - ・ 学年定時退校日の設定、個人内定時退校日揭示 (4 月)、学校定時退校日の設定 (6 月)
  - ・ 定時退校日検証会議 (8 月)
  - ・ 定時退校日についての評価査定反映 (1 月)
- 勤務時間内で全ての会議等を組み込む ⇒ 授業時間内に学年会を組み込む (4 月)
- 勤務時間以外の留守電対応を教育委員会に要望
- 多忙化解消検証会議の開催 (8 月)

## 6 IT 環境の整備 ⇒ (担当) 管理職、教務主任、校務主任

- 文書のデジタル化 (会議資料等も)
  - ・ デジタル教材一覧表作成 (市内共通)
  - ・ デジタル会議・打合せ・連絡の実施による会議削減
  - ・ ペーパーレスの徹底 ⇒ 8 月：検証会議、2～3 月：次年度関係分掌資料のデジタル化
- ICT 学習会の開催 (簡単に授業で使えるような機能)
- ICT 環境整備を市教委へ要望 (wifi 環境整備・教員一人 1 台の i-pad )

## 7 設備・行事等の見直し ⇒ (担当) 管理職

- 必要な行事の精選
- 「家庭・地域でできることは行わない」の啓発
- 空調設備等を市へ要望

## 8 通知表の見直し ⇒ (担当) 教務主任

- 通知表記述文章を定型化・データベース化
- 各領域担当と担任とのリンク化
- 通知表様式の検討

### 3 愛知県立江南高等学校

#### 【ゴールイメージ】

授業の質的改善を進め、学習指導の量から質への転換を図ることで、生徒の自主性を育てる。生徒が自主的に学習することにより、その分教員の多忙が軽減される。それによって生み出された時間を授業改善に当てることでさらなる好循環が生まれる。

#### 【課題・アクション】

#### 1 会議の精選と効率化 ⇒ (担当) 学習指導課、管理職他

##### ① 会議内容の精選による会議回数の削減

- ・年度前半(4月)・年度後半(8月)に会議内容を確認し、精選を実行。
- ・年度末に効果を検証し、次年度の計画を立案

##### ② 職員会議資料のPC上での閲覧(フォーラム・メソフィア(校務支援システム))

- ・フォーラム: 6月運用開始、メソフィア: 9月本格運用開始

#### 2 授業の質的改善 ⇒ (担当) 各教科、学習指導課、進路指導課

##### ① 年間指導計画の活用

- ・1学期、2学期で運用を開始し、反省

##### ② シラバスの作成

- ・4月に研究開始

9月: 次年度分の作成を開始

1月: 案の完成

3月: 次年度計画の立案

##### ③ 補習の見直し

##### ④ 課題の見直し

4月: 方針決定

5月: 実施準備

8月: 実施開始

#### 3 部活動指導の軽減 ⇒ (担当) 生徒会指導課、部顧問

##### ① 土日の部活動ルール徹底

- ・4月: ルールの確認及び実施開始 ⇒ 実施状況確認(5, 7, 10, 12月)
- ・2月: 効果検証 ⇒ 3月: 次年度計画立案

##### ② 部活動顧問の委嘱方法の工夫

- ・6月: 方針決定 ⇒ 8月: シミュレーション
- ・1月: 原案作成

## 在校時間記録における平成29年度と平成28年度との比較

### 1 豊橋市立豊小学校

	H29	H28	増減
	11月	11月	
100時間以上	1	1	0
80時間以上100時間未満	3	6	▲3
60時間以上80時間未満	6	11	▲5
40時間以上60時間未満	12	3	9
20時間以上40時間未満	1	0	1
0時間以上20時間未満	0	1	▲1
合計	23	22	1

### 2 あま市立七宝北中学校

	H29	H28	増減
	11月	11月	
100時間以上	0	4	▲4
80時間以上100時間未満	6	5	1
60時間以上80時間未満	6	3	3
40時間以上60時間未満	0	0	0
20時間以上40時間未満	3	2	1
0時間以上20時間未満	2	1	1
合計	17	15	2

### 3 愛知県立江南高等学校

	H29		H28		増減	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
100時間以上	2.6	4.5%	3.7	6.3%	▲1.1	▲1.8%
80時間以上100時間未満	3.6	6.2%	4.4	7.5%	▲0.9	▲1.3%
60時間以上80時間未満	18.6	32.3%	19.6	33.2%	▲1.0	▲0.8%
40時間以上60時間未満	14.7	25.6%	15.3	25.9%	▲0.6	▲0.3%
20時間以上40時間未満	11.6	20.1%	10.6	17.9%	1.0	2.2%
0時間以上20時間未満	6.4	11.2%	5.4	9.2%	1.0	2.0%
合計(80時間以上)	6.1	10.7%	8.1	13.8%	▲2.0	▲3.1%
合計(60時間以上)	24.7	43.0%	27.7	47.0%	▲3.0	▲3.9%
総人数	57.4	100.0%	59.0	100.0%	▲1.6	0.0%